

意見書案第1号

愛知県立新城東高等学校作手校舎の存続を求める意見書

愛知県立新城東高等学校作手校舎の存続を求める意見書を別紙のとおり提出する。

平成25年6月14日提出

提出者 新城市議会議員 鈴木 眞 澄

〃 中 西 宏 彰

〃 長 田 共 永

賛成者 新城市議会議員 滝 川 健 司

〃 加 藤 芳 夫

〃 森 孝

理 由

この案を提出するのは、中高連携教育、地域と繋がる特色ある教育が、新城市の将来を担う若者を育成するために不可欠であるため、愛知県立新城東高等学校作手校舎の永続的な存続に向け愛知県へ要望する必要があるからである。

## 愛知県立新城東高等学校作手校舎の存続を求める意見書

新城市では、教育の基本理念として、学校を核として家庭や地域が一体となり、大人も子供も「共に過ごし、共に学び、共に育つ」ことを目的とした「共育（ともいく）」を掲げ、学校と地域の繋がりが将来の本市を担う若者を育て、地域の活性化に繋がるものであると考えている。

新城東高等学校作手校舎は、平成25年度入学選抜による40名の募集定員を満たし、新城市内からの入学者29名をはじめ、東三河地区を中心に県下の中学生が入学をするなど特色ある学校として、新城地域のみならず東三河地方の中学生に選択の拡大を与えている。

作手地区においては、就学前のこども園から小学校、中学校、高校と連携する教育を高里地区に集中させ、教育モデル実現のため地域を挙げて計画づくりを行うとともに、昨年新たに創設された硬式野球部に対し、同窓生や地域住民を主体とした「硬式野球部を支援する会」を立ち上げて支援をしているほか、通学路線バスの運行便の倍増と料金半減を実現し、利便性の向上を図るための施策を講じている。

また、中高連携教育を進めるとともに、生徒の持てる技術を駆使し、自らの手で植物の増殖、サギソウ自生地への復元や拡大に取り組み、農業実習では地域の特産品の栽培を実践し、地域生産者とともに作手地区内の直売コーナーで販売するなど地域の活性化の役割も担っている。

こうした作手校舎の特色ある教育が引き続き行われていくことが、新城市や近隣市町村の将来を担う若者を育成するためには不可欠である。

よって愛知県立新城東高等学校作手校舎の永続的な存続に向け、付されている条件「①定員の半数を満たす②作手中学校から10名以上の入学者」の見直しを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

愛知県 新城市議会

愛知県知事

愛知県教育委員会委員長